

交通ルールを守ろう

1～14歳の子どもの死亡事故で最も多いのは交通事故です。
小さいころから交通マナーを伝えることが、
子どもの命を守ります。



チェックポイント

交通事故は、保護者が近くにいるときも起こります。散歩や買い物、登降園時には常に手をつなぎ、子どもが保護者から離れて歩くことがないようにしてください。また、子どもを自転車や車から降ろした直後は、子どもから目を離さないでください。

チェック ①

駐車場も注意

道路や駐車場など、車が多い場所では、必ず手をつないで歩く習慣をつけましょう。



チェック ②

自転車の事故も注意

自転車に乗っているときの事故も増えています。スピードを出さない、曲がり角では停止するなど、自転車のルールもしっかり伝えましょう。

子どもに教えないこと

① 歩く場所

- 歩道または路側帯(白線の内側)を歩く
- 道路の右側を歩く



③ 標識の見方

- よく目にする標識や表示の意味

② 道路の横断の仕方

- 信号の赤、青、黄の意味
- 信号機のない交差点の渡り方



④ やってはいけないこと

- 道路への飛び出し
- 道路での遊び
- 車のすぐ前や後ろの横断

心がけたいこと

大人もルールを守る

急いでいると、信号を無視したり、道路横切ったりしたくなりますが、そんな大人の姿を子どもたちは見えています。みんなで交通ルールを守りましょう。



事故を招かない工夫

- 道路の反対側から子どもを呼ばない
- 後部座席はチャイルドロック
- 道路で遊ばせない
- チャイルドシートやシートベルトを正しく使う



車に乗せるとき

チャイルドシート

6歳未満の子どもには、チャイルドシートの使用が義務づけられています。体格・体重に合ったチャイルドシートを車の後部座席で使用してください。手がドアに挟まれないよう、チャイルドロックをかけたり、窓の開閉時には必ず声をかけましょう。

また、短時間でも子どもを車内に残したまま車を離れてはいけません。親が降りる前に子どもを先に降ろすことも大変危険です。

